



パラアスリート向けのスタイリッシュなスポーツ実施空間

設置
運営

(公財) 日本財団パラスポーツサポートセンター
☎ (03) 5500-0825
<https://www.parasapo.tokyo/paraarena/>

■所在地
・東京都品川区東八潮3-1
■アクセス
・新交通ゆりかもめ「東京国際クルーズターミナル駅」下車 徒歩すぐ

DATA

■竣工
・2018年

■規模
・2,035㎡ (アリーナ)

■総事業費
・約8億円

■主な設備



アリーナ
車いすバスケットボールコート
3面相当

トレーニングルーム

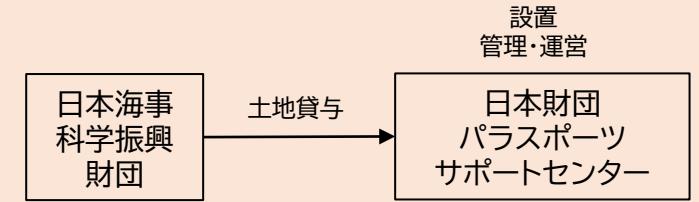
ミーティングルーム

エントランス

<その他>
・駐車場
・倉庫
・更衣室
など

■体制図 ・民設民営

・日本海事科学振興財団が所有する「船の科学館」の土地の一部を、日本財団パラスポーツサポートセンター(パラサポ)に貸与、パラサポが建物を設置し、管理運営を行っている。



構想・計画 設計・建設 管理・運営、改修等

○パラスポーツ専用施設の設置

■パラリンピック競技団体の運営支援
・設置者の日本財団パラスポーツサポートセンターは、2015年にパラリンピック競技団体の持続可能な運営体制構築のため、日本財団の支援により設立された。



<パラリンピック競技団体・パラアスリート支援>
競技団体支援 (パラリンピック競技団体の持続可能な運営体制構築)
共同オフィス運営 (パラリンピック競技団体との共同オフィス) 等

■パラアスリートの練習環境確保が背景

・車いすバスケットボールや車いすラグビー等の競技者から、体育館の床に傷をつけるのではないかと懸念により、施設管理者側から利用を断られるケースもあり、練習場所の確保が困難であるといった声が挙げられた。
・そこで、東京2020パラリンピックに向け「パラスポーツ専用アリーナ」として、選手や競技団体が練習を行うための施設「日本財団パラアリーナ(パラアリーナ)」の建設に至った。

○パラアスリートの声を取り入れた設計の工夫

■既製品を使用したユニバーサルデザインの追求
・パラスポーツ専用施設であることから、設計・建設にあたり、利用者であるパラアスリートの声を積極的に取り入れ、様々な障害のある選手にとっての使いやすさを追求する。
・施設内で使用されている設備や備品は、特注品ではなく、ほぼすべて既製品を使用している。そのため、他施設でも採用可能な汎用性の高い設備が多く、競技練習施設として、ユニバーサルデザイン及びバリアフリー対応では、最先端と言えるアリーナとなっている。



既製品を工夫して活用

○スポーツは“楽しい”“格好良い”を伝える施設に

■洗練されたイメージの創出
・パラアスリートにとって利便性の高い施設を実現するためのユニバーサルデザインと、障害者スポーツのイメージを払拭しスタイリッシュなスポーツ空間を創出するためのクリエイティブデザインの双方を取り入れた設計を行っている。
・スポーツは“楽しいもの”“格好良いもの”というメッセージを前面に打ち出し、パラスポーツの魅力伝える普及活動にも寄与している。



○日々改善、より使いやすい施設へ

■より良い施設とすべく日々改善を図る
・パラリンピック競技の日本代表合宿やクラブチームの練習等、多くのパラアスリートが利用している。
・一方、施設運営を進めていく中で、利用者の要望により、適宜改修を行うなど、建設時に完璧な施設ではなく、日々改善を図り続けている。
例えば、車いす競技者から「洗面台の下に足がつかえて使いづらい」という声があったため、台下に足が入るようにする、ガラス戸がわかりづらいということから、黒いラインを入れる等、日々改善を進めている。

○普及啓発活動の場として活用

■パラアリーナで普及啓発活動「あすチャレ！」を実施
・パラサポが実施するパラスポーツを通じたダイバーシティ&インクルージョン(D&I)教育・研修プログラム「あすチャレ！」をパラアリーナでも開催している。
・パラスポーツを取り入れた「あすチャレ！運動会」を修学旅行生を対象に実施。
・「あすチャレ！ファミリーアカデミー」特別版では、車いす利用者の目線でパラアリーナのユニバーサルデザインを見学。



アリーナ

➤ 利用者の声を聴きながら、パラアスリートが必要とする要素を随所に工夫しながら取り入れている。

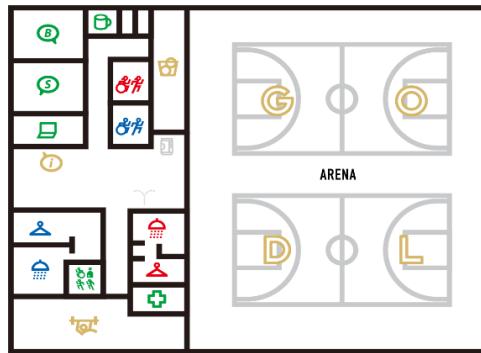
他施設では、車いすですportsをすると思われ利用を断られるケースがあった。

<日常的なメンテナンス>

・施設管理スタッフが、日常的な管理運営の中で、車いすのタイヤ痕等を見つけたらふき取り、適切な床板管理を行っている。



車いすでの利用を前提に、フローリングは傷のつきづらい素材・塗料を使用。



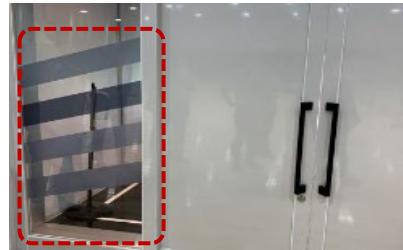
体温管理の難しいパラアスリートも利用するため、大型の空調機4台を設置。

車いす利用者は、一般の体重計で計測することが難しい。

弱視等の視覚障害者は、透明のガラスを認識しづらく、扉と誤認し、衝突する恐れがある。



車いすに乗ったままでも使用できる体重計の設置。



扉のガラス面に黒いテープを貼り付けて視認性を高め、安全性を向上。

■車いす利用者への配慮

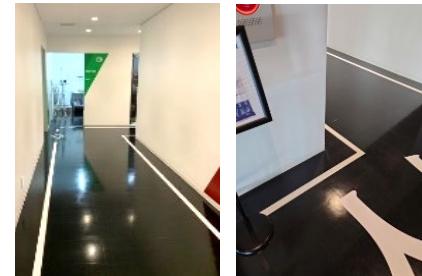
・競技用車いすは、一般の車いすに比べて、幅が広い。そのため、競技用車いすでも移動しやすい工夫を実施。

- 扉は引き戸とし、幅員を広く確保する
- 扉の手すりは長くし、どんな体格の方でも掴みやすくする
- 廊下に手すりを設置しない
- 点字ブロックは受付まで、館内では車いす利用がしやすいよう、設置しない 等

移動空間

➤ 車いす利用者が多い施設であることから、車いすでも移動しやすい環境を実現している。

視覚障害者は、壁を認識しづらい場合がある。



壁の近くの白線により壁との距離を伝達。色の対比によって、視認性を高め、斬新なイメージも創出。

車いす利用者など視線の低い人は案内表記が上にあると見づらい。



各部屋の入口前に部屋名を表記。また、部屋内に埃等を持ち込まないように、マットを設置。

ドアレールが下にあると段差ができ、車いす利用者にとって不便。



車いす利用者が安心して通ることができるように、上吊り引き戸とすることによって、下の段差を解消。

トレーニングルーム

一般的なトレーニングマシンでは車いす利用者にとって使いづらい。



席を取り外して、車いす利用者も利用可能なマシン（既製品）を設置。

トレーニングマシン同士の間隔が狭いと車いす利用者同士がすれ違いづらく、衝突のリスクがある。



トレーニング器具の間隔や通路を広く取って配置。

多くのパラアスリートが日々練習に取り組んでいますが、選手の方々が大会などで活躍している姿を目にすると、パラアリーナが少しでも役に立てたのではと思い、本当に嬉しい気持ちになります。

特に土日などは予約が重なってしまうことが多いので、パラアスリートの練習環境が全国的に充実していくことを願っていますし、パラアリーナが少しでも参考になれば嬉しい限りです！



スタッフ

トイレ

ドアの開閉方向やペーパーホルダーの位置が片側だけでは、障害の程度によって使いづらい場合がある。



ドアの開閉方向やペーパーホルダーなどの設備を左右対称に配置、利用者が使いやすいトイレを選択可能。また、男女トイレの中にも、広めの居室のトイレを設置し、気軽にトイレを利用することができる。



洗面の淵がえぐられており、車いす利用者が顔をより近づけて利用しやすい。

更衣室

車いすの足元が入るスペースがないと、ロッカーの奥まで手が届かず使いづらい。



車いすの足元が奥まで入るスペースを設けられており利用しやすい。車いす利用者でも使いやすい高さにハンガー掛けのあるロッカー。

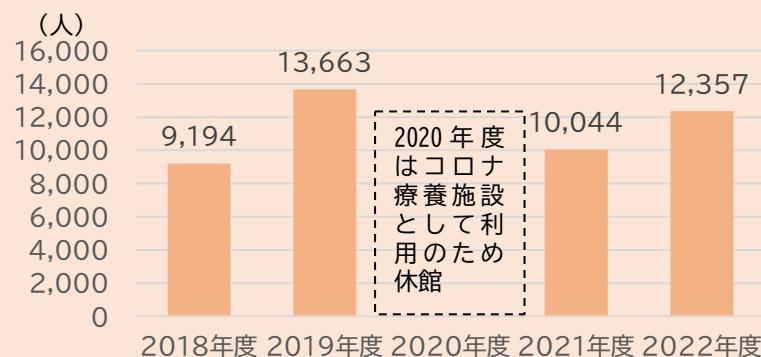
車いす利用者や体幹の弱い人など、立ってシャワーを浴びることができない場合がある。



座って利用できるようにイスやマットを設置。両側からお湯が放出され車いすに乗ったままバスタブに浸かるように体を温めることのできるシャワーも設置。

利用者現状

利用人数



※2022年度は2022年4月～2023年2月まで

効果

- ・稼働日率100%で、多くのパラアスリートに利用されている。
- ・車いすバスケットボール、車いすラグビー、ボッチャ、パワーリフティング、ブラインドサッカー、卓球、テコンドーなどの選手の利用が多い。シットイングバレーボールなども定期的な利用がある。

利用者Voice

- ・パラアスリート目線で作られていて、練習を行う際、とても使いやすい。
- ・車いす競技だと、練習できる場所が少ないため、パラアリーナがあることによって、練習環境が充実している。
- ・多くのパラアスリートが集まる場所なので、他チーム・他競技から刺激を受けることも多い。